2012年3月期 業績概要

2012年 4月27日

アンリツ株式会社
代表取締役社長　橋本　裕一

東証第1部：6754
http://www.anritsu.com

Copyright© ANRITSU

注　記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Copyright© ANRITSU

目　次

1. 事業概要

2. 2012年3月期 連結決算概要

3. ユーロ円建 転換社債の転換状況

4. 会計基準の変更

5. 2013年3月期 通期見通し

6. 配当について

Copyright© ANRITSU

1. 事業概要 － 事業セグメントの呼称と事業内容 －

セグメント	サブセグメント	事 業 内 容
計測	モバイル市場	LTE、3Gなどの携帯端末、チップセットの開発・製造・保守用テスタなど
	ネットワーク・インフラ市場	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスタ、有線および無線ネットワークの敷設・保守用テスタ、サービスアシュアランスなど
	エレクトロニクス市場	無線設備、電子部品等の開発・製造用テスタ、汎用テスタなど
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機、電気機器プリント板向け精密計測など
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど
その他		光デバイス、物流、厚生サービス、不動産賃貸など

2012年3月期 売上比率	計測 75%		産業機械 15%	情報 4%	その他 6%
モバイル 約45%	ネットワーク・インフラ 約30%	エレクトロニクス 約25%			

Copyright© ANRITSU

2. 連結決算概要 －事業別状況－

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバとして計測事業が好調に推移

セグメント	2012年3月期 の状況	トレンド
計測	モバイル関連の計測需要が継続 ・スマートフォン向け製造用計測 ・LTE端末・チップセット向け計測	↗ 高水準で安定
産業機械	国内外ともに堅調	→
情報通信	官公庁が低調、経営構造改革を実施	↘
その他	総じて堅調に推移	→

Copyright© ANRITSU

2012年3月期・通期の業績は、主に年度をとおしてモバイル計測事業が飛躍的に伸長したことにより、当期純利益の最高業績を更新することができました。

モバイル計測市場は、

（1）スマートフォンやタブレット端末に代表される、新しいモデルの開発競争、販売競争で活発な動きを見せる携帯端末製造市場と、

（2）第4世代の新たな超高速モバイル通信方式、LTE方式の研究開発用の計測システム

の需要が拡大しました。

産業機械事業は、国内の復興需要にくわえて、北米をはじめとする海外市場でも堅調に推移しました。

情報通信事業は、主力の官公庁市場の縮減もあり、組織体制のスリム化や新市場開拓などの経営構造改革に努めました。

2. 連結決算概要 －2012年3月期通期業績サマリー－

大幅な増収増益を達成

（単位：億円）

	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	803	904	101	13%
売上高	779	936	157	20%
営業利益	70	144	74	106%
経常利益	54	136	82	154%
税引前当期純利益	42	114	72	168%
当期純利益	31	102	71	232%
フリーキャッシュフロー	78	139	61	78%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu Discover What's Possible™ 6 Financial Results FY2011 Copyright© ANRITSU

計測事業の大幅な増収増益によって、グループ全体としても、営業利益、経常利益、純利益とも、前年同期比で大幅な増益となりました。

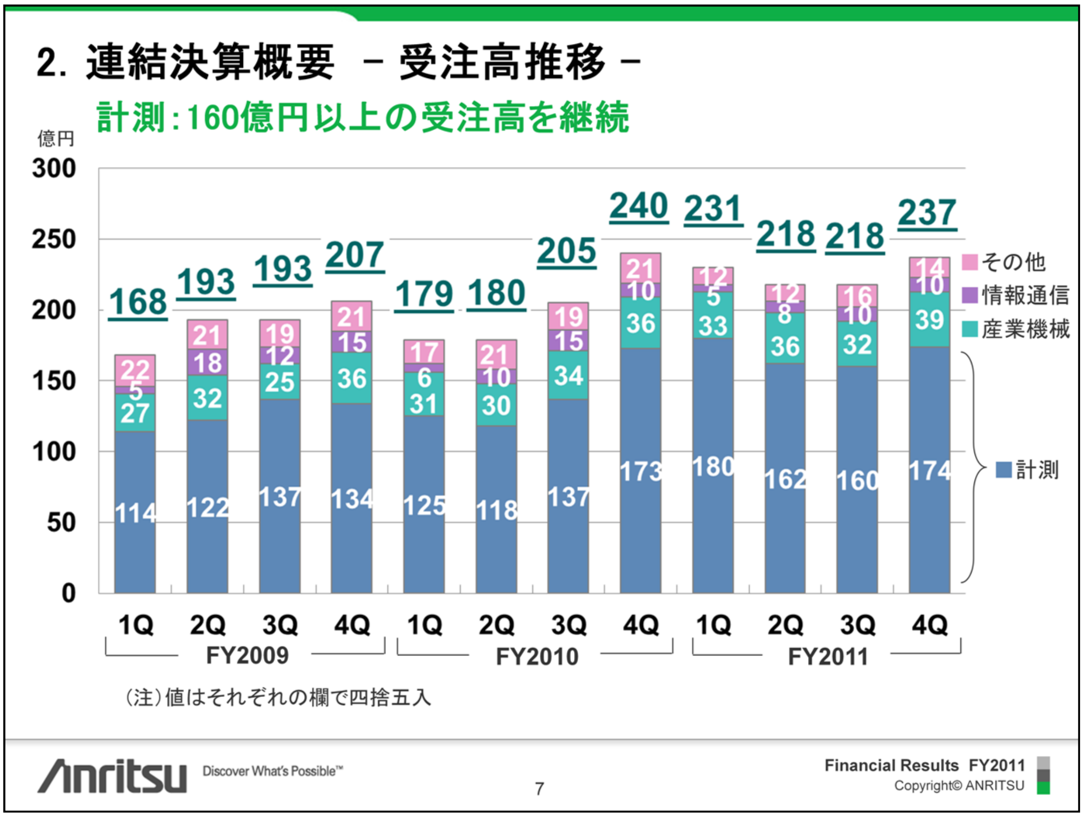
増収増益の主な要因は、次の２点が挙げられます。

(1)スマートフォン市場の拡大に伴って、携帯端末の製造ライン向けのテスター（ワン・ボックス・テスター）の受注が拡大したことにより、量産効果とコストダウン成果を反映することができたことと、

(2)付加価値率の高いソフトウェア製品群をコアとするLTE向けの計測ソリューションの売上が拡大したこと

によります。

以上のとおり、東日本大震災などによる部品入手難や円高という悪材料は続いたものの、競争優位な計測ソリューションが伸長したことにより、売上、利益、キャッシュフローともに大幅な改善となりました。



四半期単位の計測事業の受注高は、前年・第3四半期から6四半期連続して、前年同四半期を上回って推移しました。その主な要因は、

（1）モバイル計測市場を軸に設備投資が拡大していること

（2）リーマンショックからの市場回復も順調に推移していること

によると見ています。

2. 連結決算概要 － 事業別売上高・営業利益 －

計測事業のモバイル関連ビジネスがけん引

（単位：億円）

		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測	売上高	535	705	170	32%
	営業利益	51	137	86	172%
産業機械	売上高	123	142	19	15%
	営業利益	7	5	△2	△20%
情報通信	売上高	41	33	△8	△20%
	営業利益	1	△1	△2	-
その他 （含：内部消去）	売上高	79	56	△23	△30%
	営業利益	12	3	△9	△79%
合計	売上高	779	936	157	20%
	営業利益	70	144	74	106%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

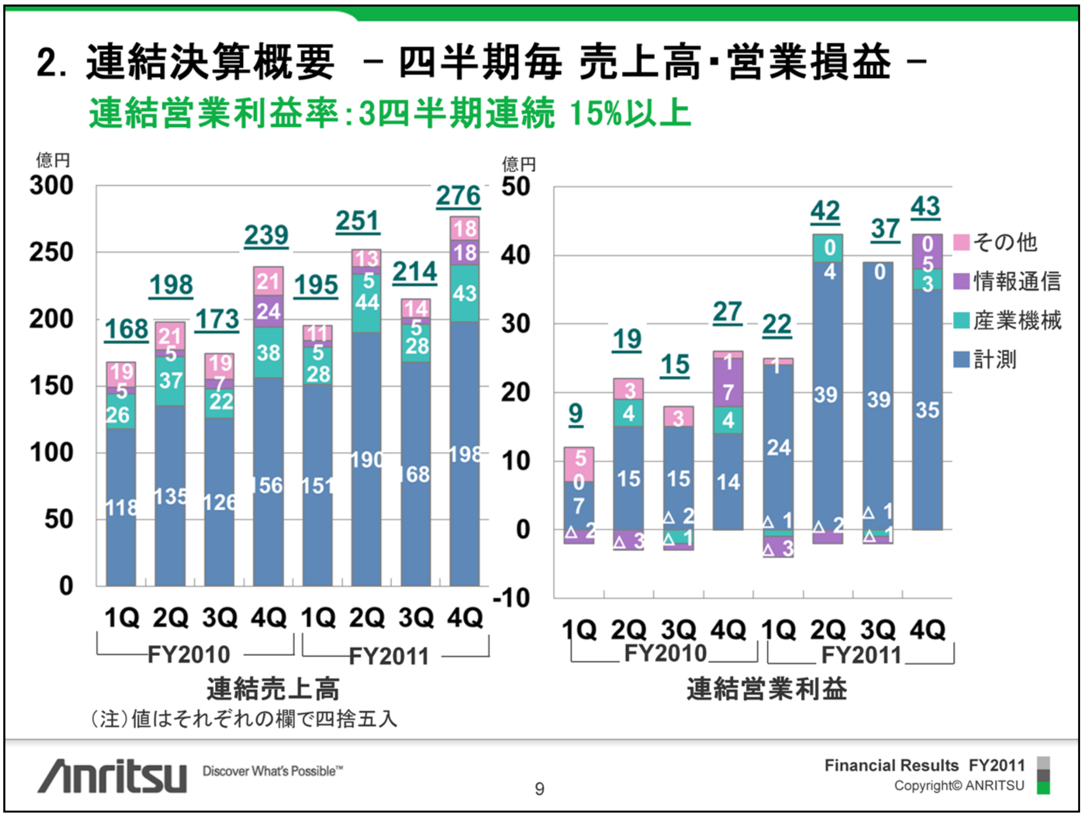
Copyright© ANRITSU

計測事業は、先述のとおり、前年同期比32%の増収となる売上高705億円を達成し、営業利益137億円、営業利益率19%の成果となりました。

産業機械事業は、食品関連の品質検査需要が日本市場や北米市場などが堅調なため、前年度比15%の増収になったもの、製品保証引当金の計上や精密計測事業との統合費用などもあり減益に留まりました。

情報通信事業は、主力の官公庁市場が低調に推移しました。

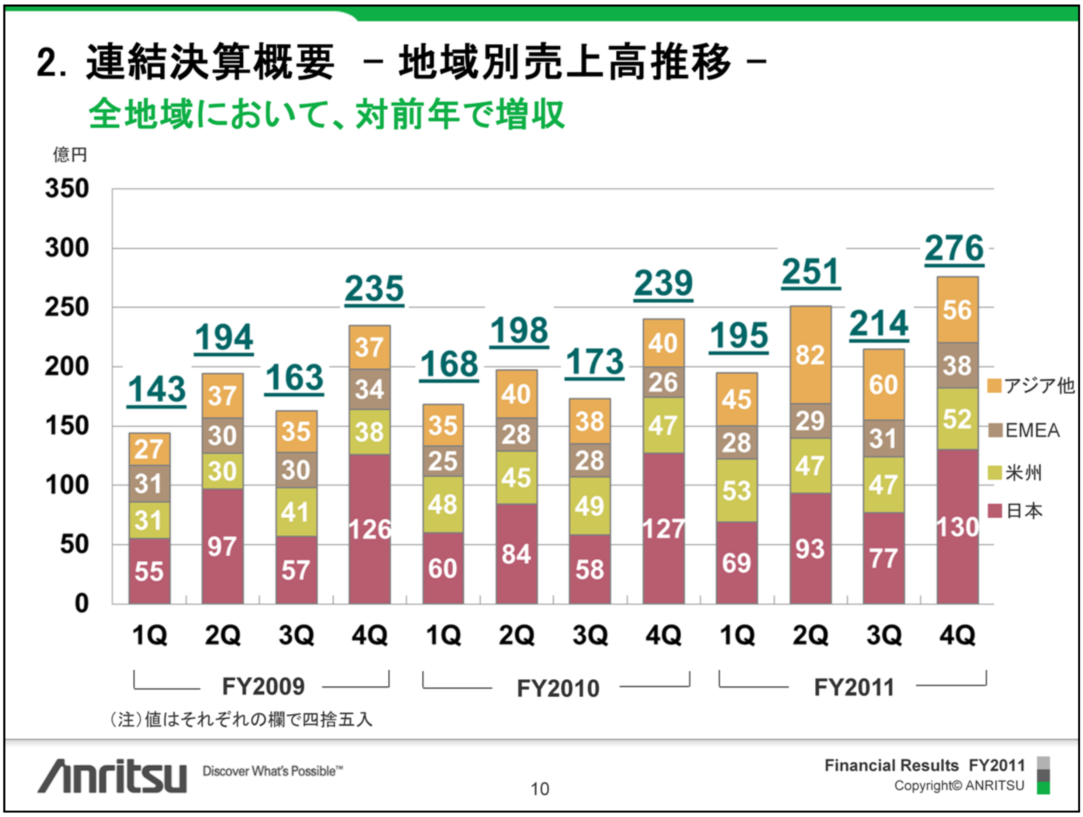
その他事業は、主に、映像配信市場関連の光デバイス事業の投資が一巡したため減収減益となりました。



当第4四半期の連結営業利益率は15．5%、

計測事業の営業利益率は17．7%でした。

計測事業の営業利益率が第3四半期の23．1%から減少した主な要因は、第4四半期の季節的要因が挙げられます。



(1) 米州は、LTE関連市場で投資が拡大する一方、無線ネットワークの整備や基地局の建設保守などの内需関連投資が一巡する傾向にあります。

(2) EMEAは、金融不安に伴う顧客の投資抑制はあるものの堅調に推移しています。

(3) アジア市場は、継続して前年度比で大幅に成長をしました。携帯端末の製造市場を軸に計測市場全体としても堅調に推移しています。

(4) 日本市場も、第4四半期の季節的要因もあり堅調に推移しました。

2. 連結決算概要 － 営業外・特別損益 －

（単位：百万円）

	前期実績	当期実績	内容
営業利益	6,994	14,415	
金融収支	△593	△410	
為替差損益	△769	△306	
その他	△270	△106	
営業外損益計	△1,632	△821	
経常利益	5,362	13,594	
投資有価証券売却益	-	10	
新株予約権戻入益	8	-	
のれん減損損失	△987	△897	ネットテスト社買収に伴う「のれん代」残存分
退職給付制度改定損	-	△528	確定拠出年金制度拡充に伴う費用
減損損失	-	△410	遊休不動産等の評価損
固定資産売却損	-	△293	デバイス事業の生産拠点移転に伴う費用
事業構造改善費用	-	△103	情報通信事業などの経営構造改革費用
投資有価証券売却損	-	△20	
投資有価証券評価損	△78	△1	
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	△68	-	
特別損益計	△1,124	△2,242	
税引前利益	4,238	11,352	

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu Discover What's Possible™

11

Financial Results FY2011

Copyright© ANRITSU

当期は特別損失22億円を計上しました。

その主な要因は、

2005年のネットテスト社買収に伴う「のれん代」の残存分、9億円全てについて評価損を計上したこと

企業年金にDC確定拠出年金プラン（過去分資産）を拡充することに伴う費用5億円を計上したこと

事業用不動産の評価損および売却損あわせて7億円を計上したこと

情報通信事業部門などの経営構造改革費用1億円を計上したこと

などです。

2. 連結決算概要 －キャッシュフロー－

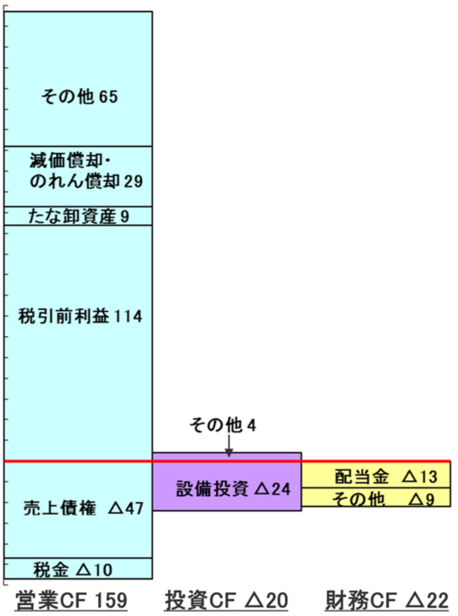
着実にキャッシュフローを創出

内訳　　単位：億円　△減少

FY2011通期累計
①営業CF：　159億円
②投資CF：　△20億円
③財務CF：　△22億円

フリーキャッシュフロー
(①＋②)：　139億円

現金同等物期末残高
396億円



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu　Discover What's Possible™　　12

Financial Results FY2011
Copyright© ANRITSU

営業キャッシュフローは159億円の資金獲得となりました。

これの主な要因は、利益の増加によるものです。また、

(1)東日本大震災に伴って寸断されたサプライ・チェーンへの対策としての部品納期の確保体制、

(2)受注、売上の急拡大に対応した増産体制

などの機敏な取り組みが功を奏して、棚卸資産を削減したことにより、運転資本回転日数が大幅に改善した効果もありました。

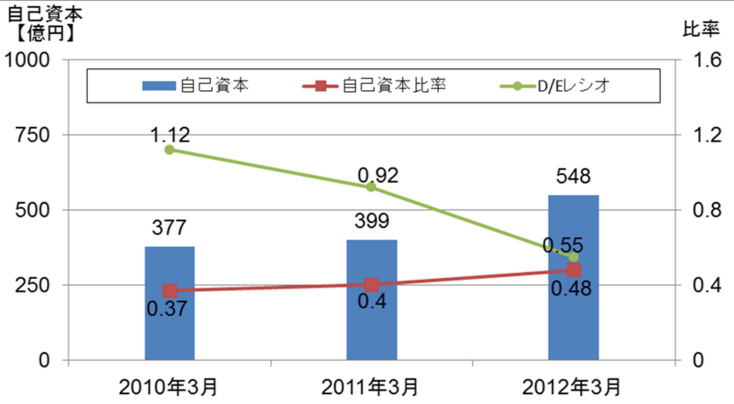
設備投資は計画どおりの進捗でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは139億円の資金獲得となりました。

3. ユーロ円建転換社債の転換状況

償還前に転換が促進し、自己資本比率、D/Eレシオが改善

発行 2010年9月28日	転換額(転換率%) 2012年3月31日現在	発行株式数 2012年3月31日現在
100億円 転換価額:629円	61億円 (61%)	発行株式数: 137,753,771株 (9,697,923株増)



Anritsu Discover What's Possible™
13
Financial Results FY2011
Copyright© ANRITSU

2010年9月に起債したユーロ円建て転換社債CB、100億円の株式への転換状況について報告します。

2012年3月31日現在で、転換率61%となり、残高は39億円となりました。

本業での増益インパクトとあいまって、主な財務指標のうち、デット・エクイティ・レシオは0.92から0.55に, 自己資本比率は48%となり、財務体質の健全性の大幅な改善となりました。

4. 会計基準の変更

日本基準→国際会計基準（IFRS）
適用　2012年4月1日～

IFRS適用による主な影響

	BS	PL	備考
退職給付会計	✓	✓	・未認識数理計算上の差異を一括認識 ・差異発生時に、「その他の包括利益」で全額即時認識
研究開発費	✓	✓	・一定の要件を満たす費用 →資産計上の上、償却処理
為替換算調整	✓		・IFRS移行日に過去分を利益剰余金に組替え

その他の影響：固定資産の償却方法の変更、有給休暇引当金の計上、
非上場有価証券の公正価値による算定、
その他日本会計基準で特別損失に計上される費用など

Anritsu Discover What's Possible™　14　Financial Results FY2011 Copyright© ANRITSU

アンリツグループは、2012年４月１日から連結決算の会計基準として国際会計基準IFRSを適用することに決定しました。

国際会計基準IFRS適用に伴い、連結決算に影響する主な項目は

(1)退職給付会計の数理計算上の未認識債務を一括して認識すること

(2)試験研究費の一部を費用処理から繰延資産の計上に変更すること

(3)為替換算調整勘定を利益剰余金に組み入れるために生じる利益剰余金の減額

などです。

なお2011年度決算に関わる国際会計基準IFRSへの組み替えについて、監査法人による監査は未了です。

5. 2013年3月期　通期の見通し(連結) : IFRS

（単位：億円）

		2012/3 期	2013/3 期		
		当期実績 (IFRS 未監査)	通期予想 (IFRS)	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高		936	945	9	1%
営業利益		139	155	16	12%
税前利益		130	145	15	12%
当期純利益		81	100	19	23%
計測	売上高	705	700	△5	△ 1%
	営業利益	137	140	3	2%
産業機械	売上高	142	150	8	6%
	営業利益	5	10	5	100%
その他*	売上高	89	95	6	7%
	営業利益	△3	5	8	-

（参考）想定為替レート: 1米ドル=80円
1ユーロ=105円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入
2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。
2012/3月期実績値は未監査のため、監査により今後変更する可能性があります。

Anritsu Discover What's Possible™　15　Financial Results FY2011
Copyright© ANRITSU

2012年度の業績見通しについて説明します。

なお、予想数値は国際会計基準IFRSの導入に伴い、組み替えた前年度概算値も含めて国際会計基準ベースで説明します。

計測事業の売上高は、ほぼ前年度の水準を見込んでいます。成長を牽引しているモバイル計測市場は、大幅な伸長を記録した2011年度と同水準の需要を期待しており、受注の獲得に全力をあげてまいります。

産業機械事業は海外市場の需要拡大を見込んでいます。

その結果、売上高は945億円、営業利益は155億円、純利益は100億円を見込みます。

6. 配当予想について

年間配当

15円（うち、中間配当7円50銭）

（参考 2012年3月期 年間配当15円（期末配当 10円））

配当方針
株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期純利益の水準に応じて、連結純資産配当率(DOE) を上昇させることを基本に、事業環境などの諸般の事情を総合的に考慮して決定しています。

Anritsu Discover What's Possible™

16

Financial Results FY2011

Copyright© ANRITSU

当社は、株主の皆様に対する利益還元策として、連結当期純利益の増益に応じて連結純資産配当率（DOE）の水準を上昇させることを基本にしつつ、諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行うこととしております。

ついては、前年度実績にほぼ近似した当期純利益100億円を見込むことから、2012年度の年間配当は、前年度と同水準の15円に据え置きます。

なお中間配当は7円50銭です。

Anritsu

Discover What's Possible™

東日本大震災から、すでに1年が経過しました。震災からの復旧・復興は、未だに多くの課題を抱えていますが、着実に前進しています。

アンリツグループも、被災地域に拠点を構えるものとして、本業面のみならず、積極的に復興を支援し、社会的責任を果たしていく所存です。

株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2012年3月期の業績報告とします。